

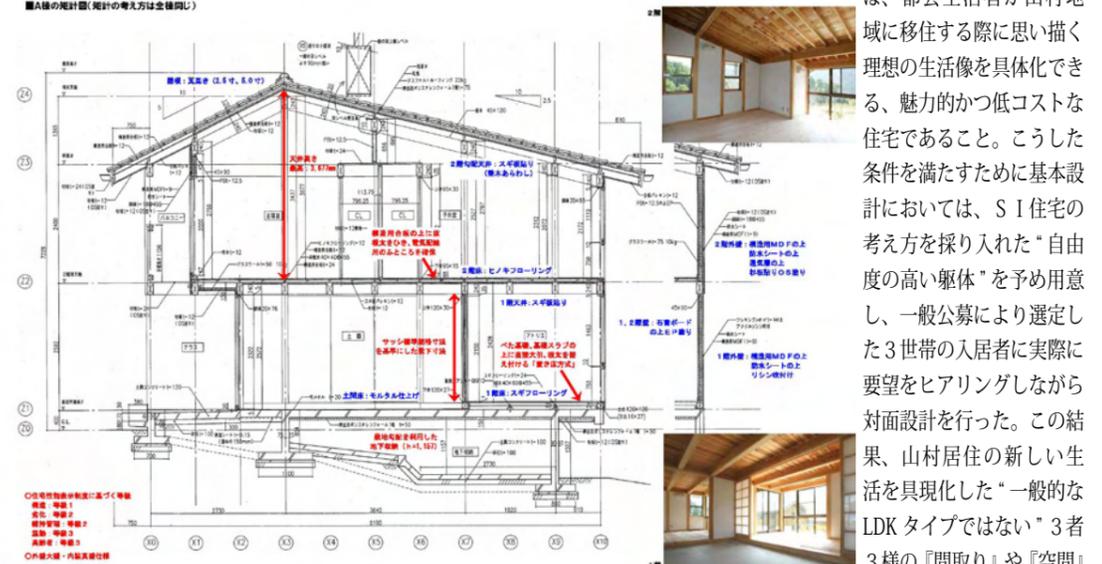
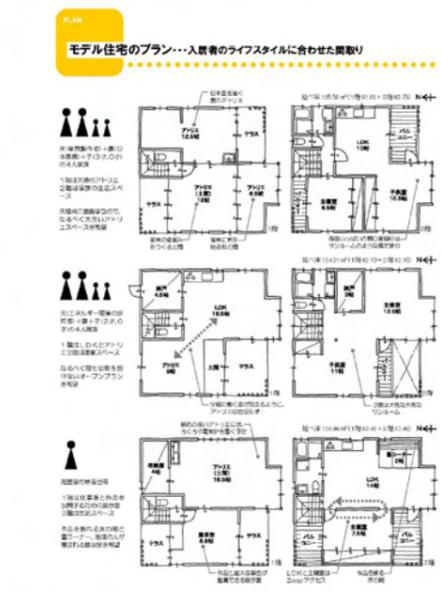
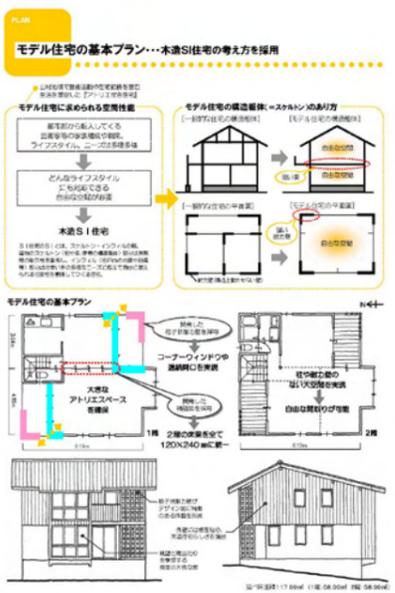
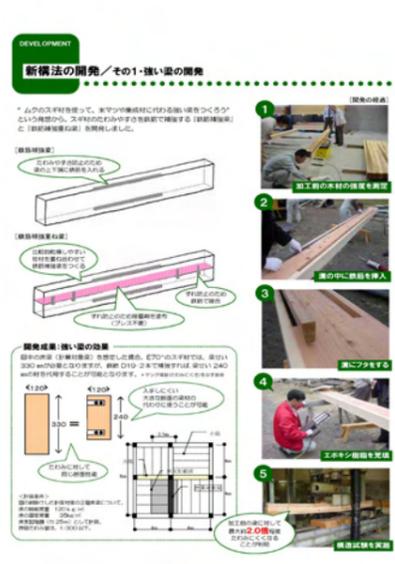
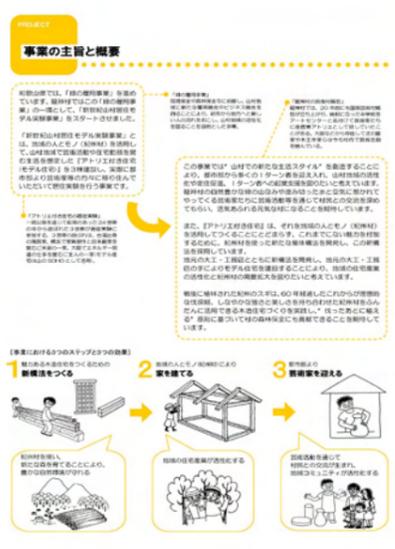
新世紀山村居住モデル実験住宅

【応募者】 氏名：新世紀山村居住モデル推進協議会 / 勤務先名：和歌山県田辺市森林局山村林業振興課 / 勤務先住所：〒646-0032 和歌山県田辺市下屋敷町 31-1
 連絡先(勤務先)：TEL (0739) 26 - 9971 Email:sanson@city.tanabe.lg.jp

- 【応募理由】
- 龍神村(現：田辺市龍神村)は、林業の盛んな村であるため近年の木材需要の減少が村の地場産業にも大きな影響を与えている一方、過疎化や高齢化の進行が大きな問題となっている。
 - こうした中、龍神村では和歌山県が進められている「緑の雇用事業※」の一環として、陶芸家などの芸術家等を受け入れるアトリエ付き住宅を、地元の力、地元の木材(=紀州材)を使って建設し、実際に都会から芸術家に入居してもらうことで、①村内への定住促進、②新規入居者への起業支援、③地域振興を図ろうとする「新世紀山村居住モデル実験事業」をスタートさせた。
 - 当該事業では、2003年度から2005年度までの3年間、HP等により龍神村への移住を希望する芸術家を募集するとともに、紀州材をふんだんに活用したアトリエ付き住宅を建設。選定された計9世帯(各年度3世帯)の芸術家は、今もなおこのアトリエ付き住宅で芸術活動を営むとともに地域住民との交流を図っている。
 - 龍神村のこのような取り組みは、単に地元の力、地元の木材を使った住まいづくりの事例として意義があるだけでなく、日本の山村地域活性化の一つのモデルとなりうる可能性を秘めていると思われ、広く周知して頂く機会とするために今回の応募に至った。

※緑の雇用事業…和歌山県では、山村地域に新たな雇用機会やビジネス機会を創ることによって都市から山村へ新しい人の流れをおこし、山村地域の活性化や環境・森林保全、都市と地方双方の活性化を図ることを目的とした「緑の雇用事業」を進めている。

【作品または活動の概要】
 事業主体：新世紀山村居住モデル推進協議会
 設計者：(株)浦ハウジング&プランニング
 施工者：(A棟)(有)ヨシダ組、(B棟)㈱タイリュウ建設、(C棟)五味建設*現在は廃業
 事業制度：新世紀山村居住モデル実験事業(国制度は公共住宅等供給効率化計画に基づく事業)
 <計画概要>
 敷地面積：1411.33㎡ 建築面積：(A棟)65.50㎡、(B棟)66.83㎡、(C棟)66.21㎡
 延べ床面積：(A棟)125.58㎡、(B棟)124.21㎡、(C棟)126.96㎡
 階数、構造、型式：2階建て、木造軸組工法、戸建住宅



【作品または活動の特色】

- 『アトリエ付き住宅』は、それを地域の人とモノ(紀州材)を活用してつくることにとどまらず、これまでになく魅力を加えるために、紀州材を使った新たな躯体構法を開発し、この新構法を採用して建設された。新構法とは、ムク材を使った格子状耐力壁と、スギ材のたわみ防止を図った鉄筋補強梁。こうした新構法は、地元の大工・工務店とともに開発を行った。
- また、アトリエ付き住宅の計画に求められた条件は、都会生活者が山村地域に移住する際に思い描く理想の生活像を具体化できる、魅力的かつ低コストな住宅であること。こうした条件を満たすために基本設計においては、S I住宅の考え方を採り入れた“自由度の高い躯体”を予め用意し、一般公募により選定した3世帯の入居者に実際に要望をヒアリングしながら対面設計を行った。この結果、山村居住の新しい生活を具現化した“一般的なLDKタイプではない”3者3様の『間取り』や『空間』が実現された。

<計画の主な特長>

- 木材は全て紀州材(スギのムク材)を使用
- 開発した格子状耐力壁と鉄筋補強梁を採用
- S I住宅の考え方を採り入れた木造戸建住宅を実現